

## 尾木ママ批判！

お茶の大生産地牧之原台地がある静岡県牧之原市で 13 歳の長女が母親を刺殺した事件は衝撃的であった。スマホ使用をめぐるトラブルであったらしい。多分、母親に執拗に注意されたかスマホを取り上げられたのか、長女が激高した衝動的な結末なのだろう。

もちろん朝のワイドショーでも取り上げられた。コメンテーターは教育評論家の「尾木ママ」こと尾木直樹であった。尾木ママのコメントを参考に「親子で話し合っただけでルールを作る」「取り上げたりせず、ルールを守れなかったら親に預ける」「スマホ料金を払っているのは親であることを自覚させること」など、スマホを巡る問題の家庭での解決策が提起された。聞いていて釈然としなかった。きっと尾木ママはもっと本質的なところを最後に突いてくるだろうと期待したが、絵にかいたような紋切り型のコメントで失望した。

そう言えば、彼は通信制高校のN高が登場した時、新たな学校の在り方と称賛していた。芸能人のコメンテーターなどは絶賛だった。ネットによる入学式参加、バーチャル空間での遠足の実施、豊富な映像授業、全てインターネット活用であり確かに新たな形態であった。しかしい、不登校経験の生徒がそんな環境の中で、教室に通うこともなく仲間と直接触れ合うこともなく、本当に不登校を克服できるのか、彼はその問題についてはコメントすることはなかった。N高を批判する気はないが、S高も加わり今では全国で2万人の生徒が在籍している(驚)。もちろんサポート教室へ通える手立ても講じているが、7割の生徒は自宅でパソコンとにらめっこしている。

スマホを巡る問題は、子どものスマホ三昧の姿にだけ気にすれば、その言動への処方箋的な方法を考えてしまうものだ。「どうしたら時間制限できるのか？」「どうしたらスマホ以外のものに興味を持ってくれるだろうか？」と。

実はスマホを巡る親子のトラブルやいさかいは、壊れた親子関係に起因している。親子関係が修復されない限り、尾木ママが言うところの解決策が実現することはない。ユーチューブの話題を話してみるのもいい、ゲームを一緒にやるのもいい。わが子のスマホ三昧の現実をまず受け入れ、普通の会話をこころがけ、笑顔が見られる関係を築くことに正面から向き合い取り組む必要がある。尾木ママはなぜそれを指摘しないのか？

(丹羽 豊)